

Nコン2019 高等学校の部 課題曲

「僕が僕を見ている」(男声四部合唱)

演奏のポイントについて 参考演奏指揮:清水 敬一さん(指揮者)

Q 男声合唱のポイントは?

清水: (この曲の歌詞の)一人称は「僕」なので、男声合唱で歌うのに非常にふさわしいと思うんですね。で、横山先生は男声合唱を書くのは3作目だとおっしゃっていました。1作目がNコン第81回の「共演者」のときにも男声合唱ありましたからね、そのときに生まれて初めて男声合唱を書いたとおっしゃっていましたけど、今回、男声合唱としての譜面がものすごくいい譜面なので日本の若い人に限らず、男声合唱のみなさんにとって本当にすばらしいレパートリーが増えたと思ってます。ですから、男声合唱団のみなさんに今後も愛される曲だと思います。

混声でも女声でも大胆な音色の変化っていうのは使いますけれども、男声には男声の振幅、音色の振幅がありますから、それをなるべく広く深くとるといいんじゃないかなと思います。ですから、Rapの部分も、男声合唱は男声合唱で、合唱でRapをやるっていうのに向いている媒体だと思いますので、思い切って大胆な表現を試みる方がいいと思います。

Q 男声合唱の参考演奏にはRap部分にクラップを入れて演奏していましたが?

清水: ハンドクラップを入れてますね。(フィンガー)スナップでもよかったんですけど、(音楽に)のっていくのに身体表現も加えるっていうのは、Rapに手の動きも加えるっていうのは気分が変わる、んじゃないでしょうか。歌もそれによって変わっていきますから。動作を加えることで歌も変わっていきますから。

Q アカペラで始まる冒頭部分はどう歌う?

清水: なかなか直接、言葉で「僕が」っていう主語から始まって「死んでいるんだ」っていうのが最初に出てくる(のは珍しいと思う)んですね。

(作詞をした)川村さんは、あの(Nコン高等学校の部の課題曲)62回だったかな、新実先生が作曲なさった「生きる」というのが谷川俊太郎さんの詞であったので、谷川さんが「生きる」ならば、死から生を照らしてみようっていうことをお考えだったようなんですけれども、その死んでいる状態っていうのを表現するところまでがアカペラなので、そこを人間の声だけでまずはどういう世界なのかっていうことを提示するっていうのに、無伴奏っていうのはとてもいい。演奏しがいがあるんじゃないかと思いますね。それからピアノが引き取って世界を広げてくださいますから。

Q 「僕がいなくなっても 世界は何も変わらない」のところ、どう歌う?

清水: もちろん死は絶望とももちろん関わってはいますけれども、でも、最後は明るいところがやってくるので、明るいところが明るいついていうだけではなくて、非常に怖い場面を歌っているときでも、だから怖く歌わなくちゃいけないとか、暗く歌わなくちゃいけない、悲しく歌わなくちゃいけない、ではなくて、、、その中でも、でも、なんていうか希望の種も入っている、みたいなことを思っていたほうがいいっていうつもりでした。